平成22年1月15日発行

有明ニュース

癌研有明病院
The Cancer Institute Hospital of JFCR

平成 22 年 1 月号　No.6

〒135-8550　東京都江東区有明 3-8-31
TEL　03-3520-0111（代表）
（URL）：http://jfcr.or.jp

新年のご挨拶　　院長　中川　健

新年あけましておめでとうございます。

この春で癌研有明病院も移転後6年目を迎えることになります。

この間当院は、臓器別チーム医療体制をがん診療の基本として、患者さんを中心にした診療を誠実に行って参りました。お陰様で、がん診療施設として高い評価を頂き、2008 年には「朝日がん大賞」を授賞しました。また、患者さんからも、提供している医療の質に対して高い評価をいただいております。一方、患者さんの数が増加傾向にあり、手術などでお待たせする期間が長くなるなどの課題もでてきておりました。そこで、昨年、手術室を1室増設し、この1月から稼働を開始しました。これによって、呼吸器外科・消化器外科・婦人科・泌尿器科・整形外科症例などを中心に年間約500件の手術件数増加が可能となり、手術までの待機時間短縮ができるものと考えております。国内唯一の民間がん専門病院である当院の位置づけをさらに高め、患者さん中心の医療を提供し続けるために、経営・運営・設備・人的体制などの諸課題をひとつひとつ解決しながら、これまで以上のサービス向上を含めた、より高質の医療を提供できるがん専門病院へと進化して行くことが重要と自覚しております。当院でのがん診療を期待して下さる関連施設や患者さんのご期待に応えられるよう、今後も職員一同が一丸となって努力して参る所存です。

皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

副院長を拝命して　　婦人科部長　瀧澤　憲

2009年9月1日付けで副院長を拝命いたしました。

有明に移転してから今日までの約5年の間、多くの患者さんを治療し、成績向上に努め、また症例を増やすという循環を実践できましたことは、病棟・外来の医師・看護師・その他の病院スタッフ全員が協力してきた賜物と深く感謝しています。

昨年4月から病棟において「7：1看護体制」を導入し、入院患者さんによりきめ細かい看護を提供できる体制を構築してまいりました。ただ、看護師数の制約があり一病棟を休止しての運用を行ってまいりましたが、本年4月からはその病棟も再開して、新しい手術室と併せて、多くの患者さんに対応できる体制をさらに充実していく予定です。当院は、今後もがん医療の基幹病院として、患者さん中心の医療を進めるとともに、ご紹介いただきました医療機関との連携を強化していきたいと考えておりますので、引き続きご協力とご支援を賜りますようよろしくお願いします。

さて、私達は、多くの患者さんを治療できる恵まれた環境にあります。これは、癌研が長い間に培って来た努力の積み重ねから来る恩恵です。私達は、単に、目前の患者さんを治療して治すことを喜びとするだけではなく、私達が考えて実践した治療方針が、真に患者さんの為に有用な治療法であるかを自省しなくてはなりません。私は、global standard との差異を認識した上で、私達の治療方針の優秀さを前向き臨床試験により科学的に証明すべきであると考えています。

どうぞ皆様よろしくお願い致します。

新体制の連携室がスタートしました。

医療支援センター　医療連携室　室長　田中　正典

新年あけましておめでとうございます。

2009 年 10 月より、山下医療連携室長（副院長）退職に伴い、新室長を拝命しました。「がん専門病院として地域の医療機関、連携医療機関との密接な連携を図り、患者さんの病状にあった適正な医療を効率よく提供する。」 ことを目的に 1999 年 4 月に医療連携室が開設され、今年で10年が経過します。地域の各医療機関の先生方、連携登録医の皆様のご支援・ご協力を頂き積極的な連携が図れるよう日々取り組んでおります。具体的には前方連携を主な業務として紹介患者さんの迅速な外来診療の対応等を行っております。医療連携を推進していく上で医療連携室が果たすべき役割は極めて大きいものがあります。課題も多数ありますが今後、地域連携パスの運用、連携医療機関の充実など積極的に推進していきたいと思います。
また、医療連携室の体制強化を図り、患者さんに最善の医療を提供すべく努力して参りたいと考えております。さらに地域の連携体制を推進していくため、「顔の見える連携」を充実させていきたいと存じます。今後ともさらなるご支援とご協力を賜りますよう、改めてよろしくお願い申し上げます。

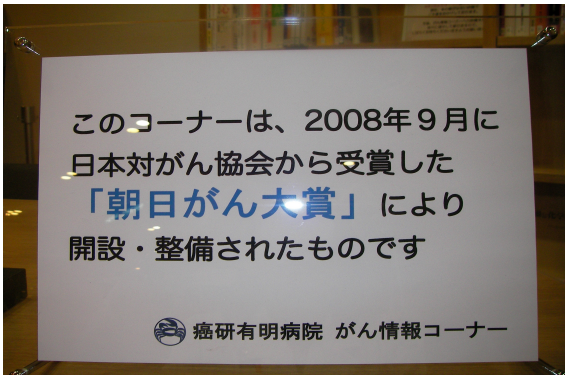
がん情報コーナー開設のご案内

ボランティア室　柴田かおり

4 月 1 日、1 階ホスピタルストリート、コンビニエンスストア横に「がん情報コーナー」がオープンしました。狭いスペースと少ない書籍でのスタートですが、今後少しずつ皆さんのご要望を伺いながら、癌研ならではの情報発信基地として、拡大できることを願っています。

「がん情報コーナー」は、2008 年 9 月に日本対がん協会から受賞した「朝日がん大賞」により開設、整備されました。

受賞に際し中川院長の「是非患者さんのために遣いたい」との意向から、以前より要望が多かった『がんの情報が欲しい、知りたい、聴きたい、話したい』に焦点を合わせ、医療支援センターと、ボランティア運営委員会で開設準備の話し合いをスタートしました。限られた院内空間での場所探し、予算内での備品の調達、患者さんのニーズを踏まえての書籍の選択、書籍の管理方法はどうするかなど、色々な分野の皆さんにアドバイス、お骨折りをいただき、オープンとなりました。



オープン初日は「何ができたのだろう」と覗きに来る方「前からこのような場所があればよいと思っておりました、また来ます」と言われる方等、28 名のご利用でした。
その後は、平均 60 名から 70 名強のご利用となっています。その他、併設の＠ステーション PC（10 分 100 円）の利用も入院、外来患者を問わず、増えているといった状況です。
（※＠ステーションについては 8:00～20:00 利用可能です。）
がん情報コーナーは、月曜から金曜の 10 時から 16 時の時間帯で、ボランティアさんが常駐する体制で行っています。患者さんの中には、エプロンをかけたボランティアさんがいると安心するのか、話しかけてくる方も多く、先生に聴けなかったこと、家族のこと、病気のこと、ひとしきり話して行かれる方もいらっしゃいます。

ホスピタルストリートの中で、決して目立つ場所ではないにもかかわらず、日々の日誌の中には、多くのドラマが残されています。
ちょっとした会話や問合せの中に、忘れがちな‘患者さん目線’を再認識しています。
がんに関する情報が提供されるだけでは充分ではないこと、情報がありすぎて余計に悩んでしまうことがあること、またそのことを誰に相談してよいか悩んでいることなど、‘患者さんのためのがん情報コーナー’としてだけではなく、私たち医療従事者にとっても‘患者さんから情報を頂くコーナー’になるであろうと感じ、期待する毎日です。
今後も、多くの皆様のご利用と、出会いをお待ちしております。

当院の専門看護師・認定看護師紹介

当院の専門看護師・認定看護師（2010 年 1 月 12 日現在）

専門分野	当院人数	全国人数
がん看護専門看護師	4 名	193 名
精神看護専門看護師	1 名	68 名
緩和ケア認定看護師	4 名	751 名
皮膚・排泄ケア認定看護師	3 名	1,129 名
乳がん看護認定看護師	1 名	106 名
がん化学療法看護認定看護師	3 名	415 名
感染管理認定看護師	1 名	953 名

がん治療支援緩和ケアチームの紹介

麻酔科・ペインクリニック　医長・がん治療支援緩和ケアチーム：　服部政治

本院では更なる患者サービスの向上を目指し、平成 21 年 5 月から緩和ケアチーム加算がとれる体制を整備しました。一般病棟でがん性疼痛治療、精神症状の治療、副作用対策、服薬指導、看護支援を行い、早期から症状マネージメントを行えるようにサービスを提供するものです。
現在、専従として麻酔科・ペインクリニック：服部政治、がん看護専門看護師：濱口恵子、専任として薬剤師：後藤玲子、樋口秀太郎、腫瘍精神科：平井康夫をコアメンバーとし、他科の協力を得ながら各科からの依頼を受けて活動しています。

がん患者は、痛み、不眠、消化器症状、精神症状、薬剤の副作用など原疾患以外の諸症状に悩まされることもあり、ひいてはそれががんそのものの治療の妨げになってしまうことも少なくありません。本院の緩和ケアチームが「がん治療支援」と冠しているのは、がん治療そのものを継続できるようにするために、がん治療の妨げとなる症状の緩和に主眼をおいているからです。たとえがん治療の継続が不可能となった場合でも、苦痛を除去するために必要な多くの専門分野の知識を駆使して、苦痛なく過ごせるように情報提供、症状マネージメントを行っています。

病棟での病状・治療説明の面談風景

がん治療支援緩和ケアチームの医師・看護師・薬剤師が 病棟の医師・看護師と話し合いをしながら、ケアを進めます

手術室での疼痛治療風景

苦痛を取り除くためにペインクリニックの最新の疼痛治療を患者ひとりひとりに合わせて提供します。

がん治療支援緩和ケアチームは 4 月から活動を開始し、11 月までに 210 名、延べ 3200 名を超える方々をケアしてきました。がん患者の苦痛の中でもその 7 割以上が「痛み」とそれに伴う諸症状（不眠、不安、宿便など）で占められています。多くの痛みは各診療科で処方されるオピオイドや鎮痛補助薬によってうまく軽減できていますが、鎮痛薬の副作用で疼痛管理が難しい場合、鎮痛薬の全身投与では痛みが軽減しない場合など症状軽減に難渋することも少なくありません。

そういった患者さんでは、大量のオピオイドや複数の鎮痛補助薬を使用することによって痛みが軽減しているのか、ボーっとしているのかわからない状態になっていることもあります。我々が目指すのはQOLの向上であり、本人の人間性を保ったまま痛みを軽減する方法を探求するところにあります。コントロールが難しい痛みに対しては、患者や家族、主治医と今後の治療方針を話し合いながら、神経ブロック（神経破壊薬の使用）や脊髄鎮痛法などの適応を判断し、これを積極的に行っています。この治療法が奏功すると、オピオイドなどの鎮痛薬量を半分～1/4 以下に減らすことができることもあり、これがひいては鎮痛薬の副作用の軽減、ADLの向上、患者負担薬剤費の減少につながります。

多くのがん患者さんが本院から疼痛治療を行った後で転院または居宅での診療に移行していきます。これまで幸いにも多くの病院・診療施設、訪問診療医師、訪問看護ステーションが当院で行った疼痛治療に理解を示していただきその治療を継続してくださいました。この場を借りてチームを代表して心から感謝いたします。今後も痛みを含む諸症状を軽減できるような症状マネージメントを研究し、地域との連携を図りながら、なるべくADLを維持できるような医療・看護・サービスを提供していきたいと思っています。

レディスセンター　婦人科

瀧澤　憲
副院長
レディースセンター長
兼　婦人科部長

平井　康夫
副部長兼健診センター所長
兼　細胞診断部部長
兼　腫瘍精神科部長

竹島　信宏
副部長

スタッフ紹介

宇津木久仁子
（医長）

杉山　裕子
（医長）

藤原　潔
（医長）

馬屋原健司
（医長）

川又　靖貴
（医員）

岩瀬　春子
（医員）

荷見　勝彦
（顧問）

他スタッフ：尾松公平、紀　美和、坂本公彦、高田恭臣、上森照代、飯塚千祥、
松村眞紀、町田弘子　　**嘱託医員**　山内一弘

メッセージ

1．婦人科がんの治療数は全国一
2．長年の経験と蓄積されたデータに基づき診療
3．患者の状態や希望を考慮した必要にして十分な治療の提供
4．常に経験のある医師が先頭に立ち、責任ある医療を提供
5．性器がん治療後のQOL改善に努力

診療内容

・婦人科と乳腺科は、がんの誘発原因が女性ホルモン関連因子で共通していることから、乳がんと婦人科がんの重複発生や、治療後の後遺症･合併症の管理について、相互に協力してきました。
・有明病院ではレディースセンターとして、受付･待合い室を共有した隣同士で外来診療を行い、また、9 階を女性専用病棟として共有するなど、ハード面でも更に接近しました。
・2009 年 4 月より、看護体制改編のため 10 階病棟は化学療法科、泌尿器科との混合病棟になりました。（9階西病棟は、婦人科の単科専門病棟です。）。

私たちの診療スタンス･特徴

私たちは、化学療法科や放射線科の助言を得つつ、婦人科医が責任を持って手術･化学療法･放射線療法などの治療手段のなかから、患者の皆様の状況に応じて、最適な治療方針を決定し、それを安全に実施するシステム(集学的治療)を構築しています。

特徴

1. 個別化治療―個々の患者のがんの特徴、身体的精神的状況、要望に合わせた治療。
2. 正確な細胞診断、組織診断に立脚したがん治療。
3. 治療後の検診―再発の早期発見。
4. がん治療に伴う後遺症･合併症による QOL 低下を予防(内分泌･骨外来、リンパ浮腫予防外来、また脱毛などに対応する帽子クラブなど)。

このような恵まれたバックグランドを得て、当科は婦人科がん治療数において日本一を維持してきました。

子宮・卵巣がんの治療数

	2005 年	2006 年	2007 年	2008 年
子宮頸がん	１５４例	２１７例	２２２例	２５４例
子宮体がん	１１０例	１４７例	１７０例	１４８例
卵巣がん	７９例	１０５例	９３例	１０９例
合計	３４３例	４６９例	４８５例	５１１例

医療機関向け　お知らせ

先生方へご案内

医療連携室では、医療機関の先生方からご紹介患者様の診察(セカンドオピニオン)予約の予約調整を行っております。また、経過報告書の管理、診察に関するご案内等を行っております。お問い合わせの窓口としてご信頼いただけますように、迅速･確実な対応を心がけて行きます。ご紹介方法は、 電話･FAX でお申込みいただけます。(また、患者様自身にお電話いただき予約することもできます。)

連携医療施設の登録のご案内

当院との医療連携が密接な医療機関に、「連携施設」となっていただいております。連携施設にご登録いただけます先生方は、医療連携室へ電話もしくはメールにてお問い合わせくださいますようお願いいたします。当院は、地域医療機関と協力して地域医療の推進に努めます。

連携施設　２４４　施設 (2009 年 12 月 24 日現在)

看護師募集中です。

日本で最初にできたがんの専門医療機関として「患者さんのための医療」に力を尽くしています。さらに医療の質を高めたいと考えております。

あなたのやさしさを『がん看護』に･･･まずはお気軽にお電話下さい。
ご応募お待ちしております。
お問合せ先　☎03－3570－0398(人事課)　☎03－3570－0392(看護部)

財団法人　癌研究会有明病院　**発行:　医療連携室**
TEL　03-3570-0506　FAX　03-3570-0254　(E-mail):renkei@jfcr.or.jp